

## 実体経済の動向

### ◇ 8月は生産、出荷とも減少

(生産——増勢やや鈍化きみながらなお高水準)

鉱工業生産(季節調整済み)は、7月に前月比+0.4%と微増のあと、8月(速報)は-1.3%の減少となった。3ヵ月移動平均値の前月比でみても、5月+2.1%、6月+1.4%、7月+1.1%と、ひとところに比べいくぶん増勢鈍化きみにうかがわれるが、前年同月比(原指数)では8月+17.0%となお高水準にある(引締め開始後1年目の前年同月比、前回<43年8月>+16.8%、前々回<40年2月>+6.0%、前々々回<37年6月>+9.1%)。なお、当月の減少には夏期休暇の増加も響いており、このまま生産が落ち着きに向かうかどうかはなおしばらく今後の推移をみる必要があらう。

生産動向を特殊分類別にみると、8月は一般資本財、生産財が微増したほかは各財とも減少した。まず資本財輸送機械では大型乗用車(2,000cc以上)が増加した反面、このところ売れ行き不振のトラックは軽トラックを除き大幅減少を示し、

建設資材も橋りょう、セメントは増加したが、金属製建具、板ガラス、建設用陶磁器等需給引きゆるみ品目を主体に前月比-3.9%と減少した。耐久消費財もこのところ輸出向けを中心とする出荷の伸び悩みから在庫増加が目だつカラーテレビのほか、軽・小型乗用車、ラジオを主体に-2.7%の減少となった。一方、一般資本財では発送配電機器、金属加工機械等は減少したが、化学機械、運搬機械等が増加、また生産財では、鉄鋼、化学肥料、電子部品等が弱含みの反面、化学製品、パルプ等が増加を示した。

(出荷——8月はやや目だった減少)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、7月に前月比+1.1%と小幅増加のあと、8月(速報)は-2.7%とやや目だった減少を示した。3ヵ月移動平均でみると、5月+0.4%、6月+1.6%、7月+0.9%となり、このところ出荷の増勢は生産のそれをやや下回っている。

特殊分類別にみると、資本財輸送機械が小型トラックを主体に引き続き減少を示し、また建設資材も金属製建具、セメント、板ガラス等を中心に-4.0%とかなりの減少を示した。そのほか各財とも軒並みに減少したが、このうち耐久消費財

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		44年		45年		45年		
		7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱 指 数		190.1	199.2	205.5	216.0	221.8	222.8	—
工 前期(月)比		4.2	4.8	3.2	5.1	4.3	0.4	-1.3
業 前年同期(月)比		17.1	17.7	19.0	18.4	20.3	18.4	—
投 資 財		4.8	7.2	7.9	6.5	6.0	0.1	-2.5
資 本 財		5.4	7.2	10.1	6.3	7.1	0.6	-2.2
同 (輸送機械を除く)		2.7	10.2	12.2	6.1	8.4	0.6	0.7
輸 送 機 械		9.8	1.8	5.7	7.4	2.2	1.5	—
建 設 資 材		3.8	6.8	2.4	6.2	2.4	1.4	-3.9
消 費 財		2.7	3.2	2.1	6.2	3.6	2.2	-2.4
耐 久 消 費 財		5.0	6.6	4.9	5.8	3.7	1.9	-2.7
非 耐 久 消 費 財		0.9	1.5	1.6	4.8	3.3	2.7	-0.9
生 産 財		4.1	4.8	3.1	2.9	3.2	0.4	0.2

(注) 通産省調べ、45年8月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		44年		45年		45年		
		7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱 指 数		184.7	192.5	202.7	205.4	210.9	213.2	—
工 前期(月)比		3.5	4.2	5.3	1.3	4.4	1.1	-2.7
業 前年同期(月)比		17.6	18.0	20.2	15.4	17.0	15.9	—
投 資 財		1.0	5.4	10.3	2.1	7.0	0.1	-3.2
資 本 財		-0.3	5.5	14.0	0.4	9.2	0.9	-3.0
同 (輸送機械を除く)		4.8	5.9	10.8	2.2	7.7	0.4	0.4
輸 送 機 械		-8.2	5.1	21.0	-4.2	14.2	-3.6	—
建 設 資 材		3.9	5.4	0.9	6.5	0.9	2.2	-4.0
消 費 財		3.6	3.5	1.3	2.2	3.5	2.4	-2.9
耐 久 消 費 財		9.6	4.8	-2.7	3.3	8.0	0.6	-2.8
非 耐 久 消 費 財		1.4	3.0	3.2	0.9	0.8	4.0	-1.2
生 産 財		5.2	3.7	4.2	0.9	2.8	0.6	-2.1

(注) 通産省調べ、45年8月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

(-2.8%)は、カラーテレビ、乗用車の落込みが主体であり、生産財(-2.1%)では鉄鋼、各種繊維織物、電子部品等が減少、一般資本財(-0.4%)でも運搬機械、化学機械は増加したが、発送配電機器、金属加工機械、建設機械が減少した。また非耐久消費財(-1.2%)では繊維二次製品等が減少した。

(製品在庫——引き続きかなりの増加)

8月の製品在庫(季節調整済み)は、前月比+3.7%と7月(+2.2%)に続きかなりの増加を示し、前年同月比でも+21.3%とこれまで比較的低水準にあった一般資本財、生産財を中心に水準が高まった。

特殊分類別にみると、各財とも増加したが、中でも一般資本財(+5.4%)、生産財(+5.7%)の増加が目だっている。すなわち、一般資本財ではトラクター、工作機械、機械プレス、鋼管等が増加しており、一部農業機械も増勢を続けている。生産財もほとんど全品目にわたり増加しており、中でも自動車、弱電の需要伸び悩みを映じた鉄鋼、板紙等のほか、化学肥料、石油製品の増加が目だっている。耐久消費財(+2.3%)では生産の減少

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
鉱工業指数	173.2	186.4	185.5	199.1	199.1	203.5	—
前期(月)末比	2.9	7.6	-0.5	7.3	2.4	2.2	3.7
前年同期(月)末比	21.2	20.3	16.3	18.3	18.3	19.2	—
製品在庫率指数	91.8	95.0	89.0	94.4	94.4	95.5	101.7
投資財	0.4	11.0	3.3	13.7	5.7	4.7	2.8
資本財	-2.7	14.8	1.7	17.9	7.1	6.3	2.1
同(輸送機械を除く)	-4.9	14.1	4.0	17.0	6.5	5.9	5.4
輸送機械	9.5	18.3	-9.2	20.9	10.0	7.9	—
建設資材	4.8	6.7	5.3	8.3	4.0	3.1	3.6
消費財	6.7	7.5	-5.7	6.1	1.6	1.0	2.4
耐久消費財	9.8	5.7	-2.2	8.2	-0.2	1.9	2.3
非耐久消費財	1.1	2.4	-2.9	5.4	2.5	0	2.7
生産財	-0.3	7.4	1.8	7.0	2.9	1.6	5.7

(注) 通産省調べ、45年8月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

にもかかわらず、軽・小型乗用車、カラーテレビ等が増加しており、建設資材(+3.6%)でもセメント、建設用陶磁器をはじめ各品目とも増加した。

以上の結果、8月の製品在庫率指数は101.7と前月(95.5)を大幅に上回り、40年9月以来の高さとなった。一時的なふれを調整するため、出荷、在庫を3ヵ月移動平均した在庫率指数でみても、5月94.8、6月95.4、7月97.1と上昇しており、最近における製品需給の引きゆるみを示している。当月の動きを財別にみると、各財とも前月上回ったが、中でも建設資材(7月115.6→8月124.8)、生産財(同88.2→95.2)の上昇が目立ち、耐久消費財(同110.1→115.9)、一般資本財(同77.1→81.6)もかなりの水準に達した。

(原材料在庫——前月著増のあと8月は減少)

8月の原材料在庫(季節調整済み、速報)は、前月大幅増加(+4.9%)のあと、前月比-1.9%(国産分-1.8%、輸入分-1.6%)の減少を示した。業種別にみると、石炭製品、非鉄金属が増加した反面、鉄鋼、金属製品、石油製品、繊維等は減少した。このうち鉄鋼、石油製品については前月著増の反動によるところが大きい、一方、金属製品(金属製建具用アルミニウム材)や繊維(合繊糸、

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年	45年		45年		
	12月	3月	6月	6月	7月	8月
在庫指数	149.9	155.1	159.4	159.4	167.2	164.0
前期(月)末比	2.5	3.5	2.8	-0.4	4.9	-1.9
国産分	2.4	4.4	3.7	-0.3	3.7	-1.8
素原材料	0.6	0.9	4.8	-2.5	4.5	-1.0
製品原材料	2.9	4.7	3.4	0.7	3.8	-1.7
輸入分	3.9	1.1	-1.5	-1.2	8.6	-1.6
素原材料	2.9	1.9	-2.0	-1.7	8.8	-1.6
在庫率指数	76.6	77.7	78.4	78.4	81.8	80.5
国産分	72.6	74.3	75.7	75.7	78.2	77.2
素原材料	79.1	80.2	84.0	84.0	87.6	86.4
製品原材料	73.2	75.0	76.0	76.0	78.7	77.8
輸入分	91.6	90.5	88.2	88.2	92.5	89.5
素原材料	91.5	91.0	88.1	88.1	92.6	89.6

(注) 通産省調べ、45年8月は速報。

同織物)の減少には在庫調整も影響しているとみられる。

（販売業者在庫——おおむね横ばい）

7月の販売業者在庫(季節調整済み、速報)は、前月比-0.2%(前月+0.2%)と微減した。このように販売業者在庫は5月に著増後おおむね横ばいに推移しており、流通段階在庫投資の着きがかがわれる。内容をみると鋼材、繊維原料・織物等は小幅増加を示し、また民生用電気機械がかなりの増加を示した(ただしカラーテレビは横ばい)反面、非鉄金属が前月に引き続き減少し、自動車も軽四輪乗用車、トラックを除き減少を示した。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年	45年			45年		
	12月	3月	6月	5月	6月	7月	
総合指数	157.8	160.8	172.3	172.0	172.3	171.9	
前期(月)末比	8.2	1.9	7.2	4.6	0.2	-0.2	
素原材料	11.3	-4.2	-6.2	-2.5	2.5	3.7	
製品	7.7	2.7	8.4	4.9	0.3	-0.6	

(注) 通産省調べ、45年7月は速報。

（設備投資——機械受注は減少）

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)は、6月前月比+7.7%、7月+0.4%と増勢持続のあと、8月(速報)は-0.4%と小幅ながら減少した。もっとも3ヵ月移動平均で見ると、5月+1.9%、6月+2.8%、7月+2.6%と依然根強い増加を示しており、これまでのところ設備投資の基調がとくに大きく変化したとはみられない。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、7月の前月比+29.9%と大幅増加のあと、8月は-11.5%の減少となり、3ヵ月移動平均値の前月比でみても5月-8.9%、6月-1.0%、7月-4.2%と着きを示している(前年同月比では+11.7%、前月+23.3%)。当月の減少には前月6倍もの著増を示した電力の反動減(-44.6%)が大きく響いているが、製造業も小幅ながら減少した(製造業-3.9%、非製造業-20.2%)。受注先業種別

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44年	45年			45年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月	
民需	2,224	2,739	2,522	2,096	2,593	2,559	
	(+ 5.2)	(+23.2)	(- 7.9)	(-22.5)	(+23.7)	(- 1.3)	
同(船舶を除く)	2,048	2,385	2,314	1,908	2,478	2,194	
	(+ 3.1)	(+16.4)	(- 2.9)	(-23.2)	(+29.9)	(-11.5)	
製造業	1,358	1,410	1,487	1,300	1,353	1,301	
	(+ 8.5)	(+ 3.9)	(+ 5.4)	(-17.0)	(+ 4.1)	(- 3.9)	
非製造業	859	1,360	1,036	802	1,245	1,255	
	(- 0.6)	(+58.3)	(-23.8)	(-29.6)	(+55.2)	(+ 0.8)	
同(船舶を除く)	706	986	832	622	1,145	914	
	(- 4.5)	(+39.7)	(-15.6)	(-33.0)	(+84.0)	(-20.2)	

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

にみると自動車、鉄鋼、繊維等は過去3ヵ月減少した反動もあって増加したが、その他の業種は電力、石油をはじめ軒並み減少した。

この間、8月の建設工事受注額(民間産業、季節調整済み、速報)は7月前月比+10.3%のあと、+0.9%と高水準(前年同月比+30.0%)ながらおおむね横ばいに推移した(3ヵ月移動平均の前月比、5月+1.4%、6月+0.2%、7月+1.7%)。

◇商品市況は弱含み

9月の商品市況をみると、石油製品、セメント等が堅調を続け、綿糸もしっかり商状を持続したが、反面、鉄鋼がほぼ全品種にわたって続落したのをはじめ、繊維では合繊、そ毛糸、人絹糸等が小幅値下がりを示し、非鉄でも鉛、ニッケル等が弱含みに推移した。その他商品でも木材、合成樹脂、紙等値下がらないし弱含み商状を示す商品が多かった。石油製品、セメント等の底堅さには、需要期入らないし需要期控えといった季節的要因も響いており、最近の商況は総じてみれば需給の引きゆるみを背景に弱含みを続けている。

商社、ユーザー筋の仕入れ態度をみると、綿糸、スフ糸等需給地合いの比較的堅調な品目を除けば、抑制方針を一段と強めている向きが多く、一部には期末換金売りも散見された(鉄鋼、木材、紙)。これは、金融引締め浸透から全般に資金繰りが苦しくなっていること、在庫増大や先

行きの供給力増大見込みなどから先安観が強まっていること(鉄鋼、合繊、非鉄、合成樹脂、紙等)によるほか、需給緩和の目だつ自動車、家電および同関連業界の仕入れ手控えが、鉄鋼、非鉄、合成樹脂、板紙等の需給に影響しはじめていることも見のがせない。

こうした状況から、需給緩和傾向の目だつ鉄鋼、紙、一部の化学品等については、メーカーの生産抑制態度が目だっている。ただ、目下の段階では、メーカーの足並みが必ずしもそろっているわけではなく、当面、在庫の増大、市況の軟調が続くものと思われる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……鋼板類は、自動車、家電関係からの需要伸び悩みに加え、輸出成約も不ぞろいなことから、冷延薄板を中心に続落、条鋼類も土建筋はじめユーザー、特約店筋の資金繰り窮屈化や先安を見込んだ仕入れ慎重化などからじり安を続けた。こうした状況下、メーカーでは10月からホット・コイルの減産強化に加え、新たに冷延薄板の減産を行なうとともに、粗鋼生産についても、10～12月期は7～9月期並みに抑制する方針を打ち出している。しかし、今後明年4月にかけて大型高炉4基が新規稼働にはいるため、供給圧力が漸次強まることは避けられず、市況は当分軟弱地合いを続けるとの見方が多い。

繊維……綿糸および産業用資材向けの好調から高値持続のスフ糸を除き、合繊、そ毛糸、人絹糸等は値下がりした。最近の合繊の値下がりにはメーカーでも予想外の速さとする向きが多く、先安人気から実需筋、扱い筋の買い控えが強まっている。一方、綿糸が高値を維持しているのは、紡機廃棄、人手不足等から生産が増加していないことが主因であるが、さらに最近では、合繊織物の不振から比較的採算のよい綿織物に乗り換える織屋がふえていることも影響している模様である。

非鉄金属……銅は保合いとなったが、その他は総じて弱含みを続けた。4月後半以降続落歩調をたどっていた銅が下げ一服となったのは、海外相

場が中東情勢の悪化、銅山ストなどから小反発を示したため、国内の需給関係は緩和基調を改めていない。市況の先行きについては、海外相場の動きいかんによるところが大きいものの、自動車、電機等を中心に内需が低調なため、当面低迷商状を続けようとの見方が多い。

石油製品……重油は、輸入進捗にもかかわらず低硫黄分のC重油を中心に需給は総じて堅調で、9月末近く一部メーカーでは市販分につき1キロリットル当り300～500円の値上げを行なった。灯油も需要期を控え一部メーカー出し値の引上げが行なわれており、値上げ気運が広がっている。

セメント……需要最盛期入りから荷動きが活発化、一部には年末にかけ供給不足を懸念する向きもあるほどで、市況も強含みとなっている。

木材……秋需期入りにもかかわらず、荷動きは例年になく盛り上がりを欠いている。このため、国産原木が杉材等造作材を中心に弱含みのほか、外材も在庫圧迫から軟調を続けており、合板も薄物を中心に値下がりした。

化学品……基礎薬品では、需要好調のカーバイド、メタノールが強含みを続けたが、反面、これまで堅調に推移してきた硫酸は供給力増から軟化し、塩素、塩酸も弱含みとなった。合成樹脂では、塩化ビニールが二次製品の需要低調から需給緩和傾向が目だち久方ぶりに反落したほか、ポリエチレン、ポリプロピレンも弱含みに推移した。

紙……上質紙は、ユーザーの当用買い態度が響いて需要に依然盛り上がりが見られず、コート紙も、万博関連の広告需要の減退を主因に軟調を続けている。板紙についても、中小メーカーの供給能力増加が目だつ一方、弱電、繊維向け出荷は伸び悩んでおり、段ボール原紙を中心に弱含み商状を持続している。

砂糖……海外原糖高にもかかわらず、荷動き不ぞろいからじり安をたどったが、月末近くになって、秋需が出はじめたため、小反発場面をみせている。

## (卸売物価——8月反騰後9月は微騰)

8月の卸売物価は、前月保合いのあと、総平均で+0.2%と4ヵ月ぶりに反騰した。類別にみると、非鉄金属が海外安を映じて銅を中心に大幅統落、化学品、金属製品、紙・パルプ・同製品も小幅下落となったが、反面、繊維品が工賃高の秋冬物衣類を中心に高騰を示し、木材・同製品、食料品、石油・石炭・同製品等も上昇した。

産業別分類では、工業製品が前月比+0.2%と統騰したが、これは中小企業性製品の上昇によるもの(前月比+0.9%)で、大企業性製品は前月に続き保合いとなった。一方、非工業製品は、農産物、鉄くず等の値上がりから6ヵ月ぶりに反騰(前月比+0.5%)した。

9月にはいつてからは、上旬は前旬比-0.1%、中旬は+0.1%となった。これは、食料品、木材・同製品等が季節的要因もあって統騰している反面、鉄鋼、非鉄金属、繊維品、紙・パルプ・同製品等が統落ないし弱含みを示していることによる

もので、そのほかでは、機械器具、金属製品等が保合いとなった。なお産業別分類では、工業製品は弱含み(上旬保合い、中旬-0.1%)ながら、非工業製品は農産物の上昇から統騰を示した(上旬+0.1%、中旬+0.3%)。

## (8月の工業製品生産者物価——微騰)

8月の工業製品生産者物価は、3ヵ月ぶりに前月比+0.2%の反騰となった。もっとも、対応卸売物価の上昇率(+0.3%)に比べると上昇率はやや鈍いが、これは綿糸で生産者物価の値上がりが大きかった反面、合成繊維、絹織物、化学製品等ではメーカー出し値の値下がりに対応卸売物価の値下がり幅を上回ったためである。

## (9月の消費者物価——大幅上昇)

9月の消費者物価(東京、速報)は、総合で前月比+2.2%の大幅上昇となった(前年同月比+5.9%、季節商品を除く総合では前月比+1.5%)。これは、秋冬物衣料が糸高に加え縫製工賃、デザイン料高から大幅に上昇したため被服が高騰(前月

## 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比上昇率		最 近 の 推 移(前月(旬)比上昇率)									
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 8 月			45 年 9 月			
				6 月	7 月	8 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬		
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	- 0.4	保 合	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保 合	- 0.1	+ 0.1		
食 料 品	15.7	+ 5.2	+ 4.2	+ 0.5	- 0.3	+ 0.5	+ 0.3	+ 0.4	+ 0.8	+ 0.1	+ 0.3		
繊 維 品	10.7	- 0.9	+ 0.4	- 0.1	+ 1.0	+ 1.4	+ 1.1	+ 0.2	- 0.2	- 0.3	保 合		
鉄 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	- 2.5	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.2	保 合	- 0.4	- 0.2	- 0.4		
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	- 5.8	- 4.0	- 2.9	- 0.2	- 1.0	- 2.0	- 1.6	- 0.1		
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	+ 0.6	+ 0.2	- 0.2	- 0.1	保 合	- 0.1	+ 0.1	保 合		
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	保 合	- 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合		
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	+ 0.2	- 0.1	+ 0.4	+ 0.1	保 合	+ 0.3	+ 0.3	- 0.1		
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	- 0.1	+ 0.1	+ 1.0	+ 0.4	+ 0.1	- 0.1	+ 0.3	+ 0.1		
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.3	+ 0.3	保 合		
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	+ 0.1	- 0.2	- 0.1	- 0.2	保 合	- 0.1	保 合	+ 0.3		
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	保 合	+ 0.1	- 0.1	保 合	保 合	- 0.1	+ 0.1	- 0.2		
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.4	保 合		
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	- 0.5	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	保 合	- 0.2	保 合	- 0.1		
うち 大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	- 0.7	保 合	保 合							
中小企業性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	- 0.1	+ 0.4	+ 0.9							
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	- 0.3	- 0.7	+ 0.5	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.6	+ 0.1	+ 0.3		

(注) 本行調べ。

## 工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		43年度 平均	44年度 平均	45 年		
				6月	7月	8月
総 平 均	100.0	+0.3	+2.4	-0.4	保 合	+0.2
食 料 品	12.6	+5.7	+2.4	-0.4	+0.3	+0.2
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-1.1	-0.3	+1.0	+0.4
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-3.1	-0.5	-0.5	-0.6
織 物	2.8	-0.5	+1.3	-0.4	+2.0	-0.2
織 維 二 次 製 品	3.2	+5.3	+3.4	+0.2	-0.1	+3.6
普 通 鋼 鋼 材	7.2	-5.3	+10.2	-3.1	+0.2	+0.8
特 殊 鋼 鋼 材 其 他	2.5	-2.1	+3.0	+0.6	保 合	-0.6
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+16.5	-5.2	-3.4	-2.5
金 属 製 品	4.6	+0.6	+2.2	保 合	+0.3	-0.1
一 般 機 械	10.4	+2.1	+1.6	+0.2	+0.5	+0.4
輸 送 機 械	8.3	-1.6	-1.2	+0.1	保 合	保 合
電 気 機 械 器 具	9.1	-1.0	+0.1	+0.1	-0.1	-0.4
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	-1.3	-1.6	+0.1	+0.2	+0.6
木 材 ・ 同 製 品	5.0	+5.1	+3.5	+0.3	+0.3	+0.9
窯 業 製 品	3.4	+0.9	+1.4	+1.2	+0.5	+0.3
化 学 製 品	7.8	-2.6	-1.0	+0.1	保 合	-0.5
紙 ・ パルプ ・ 同製品	4.5	-0.1	+2.9	+0.2	+0.5	-0.1
雑 品 目	6.1	+0.2	+2.7	-0.1	+0.1	-0.1

(注) 本行調べ。

比+7.2%)したほか、食料も、くだもの、野菜、鶏卵等を中心にかなり上昇(同+2.8%)したのが主因で、そのほか住居費、光熱費および雑費も小幅ながら続騰した。

## (8月の輸出入物価——ともに下落)

8月の輸出入物価は、輸出環境の悪化を映じ前月比-0.3%と43年7月以来2年1ヵ月ぶりに下落した(もっとも、船舶を除く総平均では本年6月以来続落)。財別にみると、金属・同製品、繊維品が続落したほか、化学製品、雑品目が反落した。

一方、輸入物価は前月比-0.8%と4ヵ月間の続落となった。8月の大幅下落は、金属が銅鉱、銅地金、銑鉄を中心に大幅に下落したのが主因であるが、このほか繊維品、化学製品等も反落した。なお、食料品は、粗糖、飼料、ココア豆等の値上がりから続騰。

この結果、交易条件指数は前月比0.6ポイント

## 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウ エ  イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 近 の 年 月 前 同 比	
				43年 度 平 均	44年 度 平 均	45 年				
						7 月	8 月	9 月		
消 費 者	東 京	総 合	100.0	+5.2	+6.6	+0.4	+0.5	+2.2	+ 5.9	
		(季節商品を除く)	91.4	+5.6	+5.6	+0.2	+0.6	+1.5	+ 5.8	
		食 料	40.9	+6.5	+8.1	+0.6	+0.5	+2.8	+ 5.1	
		住 居	10.7	+2.4	+3.0	+0.4	+0.3	+0.4	+ 4.6	
		光 熱	4.5	+0.3	+0.3	保合	+0.1	+0.2	+ 0.4	
		被 服	13.0	+5.5	+7.2	+0.2	+0.5	+7.2	+11.5	
		雑 費	31.0	+5.3	+6.3	+0.1	+0.6	+0.4	+ 6.0	
	物 価	全 国	総 合	100.0	+4.9	+6.4	+0.7	+0.5		+ 5.8
			(季節商品を除く)	91.4	+5.3	+5.2	+0.3	+0.3		+ 5.8
		上 の 都 市 以 外	総 合	100.0	+4.9	+6.6	+0.7	+0.5		+ 5.9
(季節商品を除く)			91.3	+5.3	+5.3	+0.3	+0.4		+ 6.0	
輸 入 物 価	輸 出 入 易 交 条 件			+0.6	+4.0	+0.1	-0.3		+ 4.8	
				-0.3	+3.8	-0.1	-0.8		+ 2.3	
				+0.9	+0.2	+0.2	+0.6		+ 2.5	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

2. 45年9月は速報。

上昇し、引き続き改善傾向をたどった。

## ◇国際収支はかなりの黒字

8月の国際収支をみると、貿易収支の黒字は前月を下回ったものの、長期資本収支の流出超幅が縮小し、また投資収益の流入増などから貿易外収支の赤字も若干減少したため、総合収支では178百万ドルの黒字と前月(同79百万ドル)に比し黒字幅が拡大した。

季節調整後の貿易収支をみると、輸入が素原材料を中心に増勢一服ぎみながら依然高水準にある一方、輸出は船舶の落込みなどから大幅に減少したため、月中の黒字幅は223百万ドル(前月339百万ドル)と、昨年11月以来9ヵ月ぶりに2億ドル台に落ち込んだ。

長期資本収支は83百万ドルの流出超(前月同163百万ドル)と本年初来では2月(同51百万ドル)に次ぐ小幅の赤字にとどまった。これは、本邦資本が船舶輸出関係延払信用供与額の減少などから118百万ドルの流出超(前月同139百万ドル)にとどまったうえ、外国資本が対日証券投資の流入超

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	44年	45 年			45 年			44年
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	6月	7月	8月	8月	
経 常 収 支	766	67	383	173	193	193		201
貿易収支	1,159	591	851	335	375	339		325
輸 出	4,494	4,050	4,595	1,609	1,686	1,572		1,350
輸 入	3,335	3,459	3,744	1,274	1,311	1,233		1,025
貿易外収支	△ 356	△ 465	△ 417	△ 139	△ 162	△ 128	△	112
移転収支	△ 37	△ 59	△ 51	△ 23	△ 20	△ 18	△	12
長期資本収支	△ 178	△ 438	△ 481	△ 171	△ 163	△ 83	△	61
本邦資本	△ 579	△ 670	△ 455	△ 166	△ 139	△ 118	△	102
外国資本	401	232	26	5	24	35		41
基礎的収支	588	371	98	2	30	110		140
(増減)	(339)	(37)	(7)	(△ 11)	(△ 6)	(△ 6)	(	64)
短期資本収支	141	185	156	27	85	76		56
誤差脱漏	△ 19	△ 170	△ 35	△ 19	△ 36	△ 8		1
総 合 収 支	710	△ 16	23	48	79	178		197
金融勘定	710	△ 16	23	48	79	178		197
外貨準備	270	372	99	△ 132	△ 261	19		92
増減その他	440	△ 388	122	180	340	159		105
外貨準備高	3,496	3,868	3,769	3,769	3,508	3,527		3,126
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	694	395	419	419	670	825		183

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

## 輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年7~9月	1,336 (+ 4.6)	1,056 (+ 12.1)	280	1,359 (+ 4.0)	1,337 (+ 13.6)	1,131 (+ 8.4)	1,414 (+ 4.4)	1,247 (+ 1.3)
10~12月	1,394 (+ 4.3)	1,090 (+ 3.2)	304	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年1~3月	1,499 (+ 7.6)	1,166 (+ 6.9)	333	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
4~6月	1,546 (+ 3.2)	1,228 (+ 5.3)	318	1,578 (+ 2.6)	1,534 (+ 3.7)	1,260 (+ 2.1)	1,627 (+ 2.7)	1,465 (+ 4.5)
45年 6 月	1,601 (+ 6.0)	1,279 (+ 7.8)	322	1,647 (+ 6.8)	1,648 (+ 13.0)	1,268 (+ 1.0)	1,669 (+ 3.2)	1,523 (- 2.0)
7 月	1,653 (+ 3.2)	1,314 (+ 2.7)	339	1,643 (- 0.2)	1,678 (+ 1.8)	1,267 (- 0.1)	1,707 (+ 2.3)	1,619 (+ 6.2)
8 月	1,535 (- 7.1)	1,312 (- 0.2)	223	1,563 (- 4.8)	1,654 (- 1.4)	1,308 (+ 3.2)	1,598 (- 6.4)	1,592 (- 1.6)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。  
 3. 季節調整はセンサス局法による。

転化(24百万ドル、前月流出超23百万ドル)に伴い4か月ぶりに流入超(35百万ドル、前月流出超24百万ドル)となったためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは、前月に引き続き買持ち輸出手形の増加、輸入金融の円シフト(本行の輸入資金貸付に伴う外為会計の対為銀スワップ取引)に伴う外銀借入れの減少などから155百万ドルの改善を示し、一方外貨準備は、月中19百万ドルの増加(月末残高3,527百万ドル)となった。

8月の輸出は、前2か月比較の高い伸びをみせたあと、前年同月比+16.4%(前月+21.5%)にとどまり、季節調整後の前月比でも-7.1%(前月+3.2%)と大幅な減少を示した。これは、鉄鋼(通関ベース、前年同月比+38%)、自動車(同+36%)、合繊織物(同+23%)等は好調を持続したものの、これまで増加の目だった船舶(同-10%)が1年ぶりに前年を下回ったほか、テレビ(同+1%)、綿織物(同-14%)が停滞の色を濃くし、また化学製品(同-2%)も化学肥料を主体に低調であったためである。仕向け先別にみると、船舶の減少が響いた西欧向け(同+24%、前月+68%)のほか、

米国向け(同+15%、前月+21%)も伸び率が低下し、また、共產圏向けも中共向けを主にここ2か月伸び悩みを示している。

9月の輸出信用状接受高は、前年同月比では+14.0%(前月+16.1%)と前年の増勢が著しかったこともあってやや伸び率が低下したが、季節調整後の前月比では+2.1%(前月+3.2%)の増加となった。9月の接受高を品目別に、前年同月比で見ると、自動車、電気機械等機械の大幅増加が目だった反面、これまで高い伸びを示してきた鉄鋼は

前年に著増したこともあって伸び率が大幅に低下し、そのほか、繊維製品、雑貨も引き続き伸び悩みとなった。また地域別には、欧州向けが機械を中心に大幅増加となったほか、米国向けもまづまづの増加をみせた一方、アジア向けは中共向け化学肥料の低調などから前年実績を下回った。

輸入は、6、7月にかかなりの増加を示したあと、8月は前年同月比+20.3%(前月同+28.4%)、

季節調整後の前月比では-0.2%(前月同+2.7%)となった。品目別(通関ベース)に前年同月比の伸びをみると、砂糖(前年同月比+80%)、鉄鉄(同+75%)、化学製品(同+36%)等は引き続き高い伸びを示したが、綿花(同-3%、前月+32%)、原油(同+3%、前月+28%)、鉄くず(同+47%、前月+115%)等の素原材料は在庫の増加もあって

### 通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年	45 年		45 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	6 月	7 月	8 月
食 料 品	129 (+ 1)	125 (+ 22)	160 (- 7)	53 ( 0)	62 (+ 13)	69 (+ 16)
魚 介 類	82 (- 3)	59 (+ 12)	65 (+ 13)	24 (+ 22)	28 (+ 24)	32 (+ 19)
織 維 製 品	662 (+ 8)	497 (+ 6)	584 (+ 4)	199 (+ 8)	215 (+ 10)	205 (+ 7)
綿 織 物	60 (- 18)	40 (- 21)	46 (- 19)	15 (- 17)	17 (- 7)	15 (- 14)
合 織 織 物	166 (+ 27)	123 (+ 27)	147 (+ 23)	49 (+ 26)	56 (+ 26)	55 (+ 23)
化 学 製 品	301 (+ 30)	287 (+ 44)	296 (+ 32)	91 (+ 20)	101 (+ 6)	95 (- 2)
非 金 属 鉱物製品	105 (+ 11)	86 (+ 1)	95 (- 4)	30 (- 7)	32 (- 2)	31 (- 7)
金 属 製 品	870 (+ 31)	820 (+ 36)	940 (+ 36)	319 (+ 36)	324 (+ 28)	329 (+ 36)
鉄 鋼	651 (+ 36)	633 (+ 41)	689 (+ 36)	240 (+ 41)	242 (+ 34)	238 (+ 38)
機 械 機 器	2,059 (+ 23)	1,933 (+ 27)	2,113 (+ 25)	772 (+ 28)	796 (+ 28)	696 (+ 17)
(船 舶 を除く)	1,713 (+ 22)	1,536 (+ 26)	1,795 (+ 24)	616 (+ 24)	660 (+ 24)	640 (+ 20)
テ レ ビ	100 (+ 16)	71 (+ 16)	88 (+ 7)	30 (+ 5)	39 (+ 18)	40 (+ 1)
ラ ジ オ	174 (+ 33)	136 (+ 29)	169 (+ 24)	58 (+ 23)	62 (+ 13)	64 (+ 25)
自 動 車	267 (+ 25)	266 (+ 21)	306 (+ 31)	102 (+ 32)	120 (+ 32)	114 (+ 36)
船 舶	345 (+ 27)	397 (+ 35)	318 (+ 32)	156 (+ 45)	136 (+ 52)	56 (- 10)
光 学 機 器	124 (+ 13)	105 (+ 19)	123 (+ 11)	42 (+ 11)	47 (+ 16)	42 (+ 12)
そ の 他	445 (+ 10)	383 (+ 15)	481 (+ 11)	175 (+ 17)	186 (+ 16)	174 (+ 8)
合 計	4,571 (+ 20)	4,131 (+ 25)	4,668 (+ 21)	1,640 (+ 23)	1,717 (+ 21)	1,599 (+ 16)
(船舶を 除く)	4,225 (+ 20)	3,734 (+ 24)	4,350 (+ 20)	1,484 (+ 21)	1,580 (+ 19)	1,543 (+ 17)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

### 通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年	45 年		45 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	6 月	7 月	8 月
食 料 品	584 (+ 20)	579 (+ 15)	605 (+ 17)	203 (+ 23)	219 (+ 22)	210 (+ 29)
小 麦	75 (+ 3)	82 (+ 13)	66 (- 12)	20 (- 10)	32 (+ 10)	29 (+ 12)
とうも ろこし	72 (+ 15)	74 (+ 26)	78 (+ 24)	26 (+ 30)	22 (+ 2)	19 (+ 56)
砂 糖	56 (+ 75)	58 (+ 11)	63 (+ 52)	21 (+ 71)	22 (+ 70)	28 (+ 80)
原 燃 料	2,316 (+ 18)	2,421 (+ 26)	2,636 (+ 30)	900 (+ 29)	924 (+ 29)	857 (+ 18)
羊 毛	87 (- 6)	97 (- 3)	93 (- 5)	34 (+ 15)	34 (- 18)	30 (- 11)
綿 花	104 (- 11)	111 (+ 2)	131 (+ 14)	47 (+ 8)	39 (+ 32)	34 (- 3)
鉄 鉱 石	255 (+ 16)	265 (+ 22)	306 (+ 25)	107 (+ 20)	99 (+ 14)	94 (+ 13)
鉄鋼くず	70 (+ 30)	66 (+ 108)	102 (+ 143)	38 (+ 197)	42 (+ 115)	32 (+ 47)
非鉄金属鉱	218 (+ 48)	255 (+ 72)	274 (+ 77)	99 (+ 76)	87 (+ 49)	97 (+ 26)
大 豆	77 (+ 10)	87 (+ 33)	87 (+ 26)	30 (+ 30)	27 (- 4)	26 (+ 69)
木 材	342 (+ 15)	338 (+ 28)	385 (+ 16)	141 (+ 18)	149 (+ 26)	132 (+ 22)
石 炭	184 (+ 36)	188 (+ 26)	249 (+ 58)	83 (+ 50)	95 (+ 57)	90 (+ 45)
原 油	536 (+ 18)	544 (+ 17)	534 (+ 18)	160 (+ 11)	185 (+ 28)	166 (+ 3)
化学製品	209 (+ 9)	239 (+ 29)	255 (+ 32)	88 (+ 29)	84 (+ 21)	82 (+ 36)
機 械 機 器	429 (+ 23)	561 (+ 54)	591 (+ 46)	260 (+ 85)	188 (+ 34)	187 (+ 22)
鉄 鋼	66 (- 13)	81 (+ 24)	74 (+ 44)	25 (+ 98)	27 (+ 81)	28 (+ 75)
非鉄金属	256 (+ 35)	262 (+ 24)	237 (+ 15)	69 (+ 7)	91 (+ 30)	75 (- 7)
そ の 他	260 (+ 39)	259 (+ 51)	282 (+ 44)	96 (+ 35)	113 (+ 43)	115 (+ 40)
合 計	4,120 (+ 20)	4,403 (+ 29)	4,680 (+ 30)	1,640 (+ 35)	1,646 (+ 30)	1,554 (+ 21)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。



伸び率が鈍化し、また非鉄金属(同-7%)も値下がり(前年同月比7月+8.6%、8月-0.9%)と、需給の引きゆるみを映じた輸入手控えから前年を下回った。

8月の輸入承認額は、前月大幅増加のあと季節調整後の前月比で-1.6%(前月同+6.2%)となった。もっとも、前年同月比では+29.5%(前月同+29.3%)と引き続き高水準にある。品目別に前年同月比でみると、機械、食料品、石油、石炭がかなりの増加となった反面、鉄くず、鉄鉄、非鉄金属鉱等は減少ないし伸び率鈍化を示した。

7月の輸入素原材料在庫(製造業、季節調整済み)は、石炭、原油等の輸入量増大から、同消費の伸び(前月比+3.5%)を上回る増加(同+8.7%)を示し、その結果、在庫率指数は92.5(前月88.1、既往最低水準)とかなり上昇した。

#### ◇賃金は依然高水準の伸びを持続

(労働力需給——求人倍率やや低下)

一般新規求人(新規学卒者を除く、季節調整後)は、5、6月増加の反動から7月にやや目だった減少(前月比-9.4%)を示したあと8月も-1.2%の減少となった。最近の求人減は土木建設のほか電機、自動車の減少が主因であるが、このうち電機、自動車については、環境悪化による新規求人の手控えが響いているものとみられる。一方、新規求職は、4～6月増加(前期比+2.3%)のあと、7月は前月比-6.7%とかなりの減少を示したが、8月はその反動もあって前月比+6.2%の増加となった。以上の結果、4月以降横ばいに推移してきた求人倍率(1.42倍)は、8月には1.38倍とやや低下した。

常用雇用(全産業、季節調整後)は、4～6月前期比+0.3%のあと、7月前月比+0.3%、8月同+0.3%の増加となった。業種別には、鉱業、電気・ガス・水道業、運輸・通信業等非製造業の伸び悩みが目立つ反面、製造業は根強い増勢を持続している。一方、所定外労働時間は、6月(前月比+0.8%)、7月(同+1.4%)と増加のあと、8月は前月比-1.1%の減少(製造業同-2.2%)とな

った。これには夏期休暇の普及に加え、電機、自動車、非鉄等における一部生産調整の動きも響いているものとみられる。

1人当り名目賃金(全産業)は、4月以降春の大幅ベース・アップに伴う定期給与の増加を映じ、かなりの伸びを続けてきたが(4～6月前年同期

一般労働力需給(新規学卒者を除く)

	新規 求人	季節調 整済み 前期 (月)比	新規 求職	季節調 整済み 前期 (月)比	就職	季節調 整済み 前期 (月)比	求人 倍率	季節調 整済み
44年 7～9月	13.3	5.0-	3.4-	2.1	0.0	1.1	1.4 (1.2)	1.32
10～12〃	22.1	9.8-	1.3	0.9	2.2	2.4	1.6 (1.3)	1.43
45年 1～3月	16.5-	3.0-	0.9-	0.5	5.1	2.9	1.3 (1.1)	1.47
4～6〃	8.9-	2.4	0.9	2.3	0.9-	4.7	1.4 (1.3)	1.42
45年 5月	9.0	2.2-	2.0-	5.7	3.4	5.3	1.5 (1.3)	1.42
6〃	12.6	5.2	2.7	5.1	2.0-	2.5	1.5 (1.3)	1.42
7〃	0.2-	9.4-	2.6-	6.7-	2.8-	4.5	1.3 (1.2)	1.42
8〃	0.9-	1.2	3.9	6.2	1.7	6.0	1.4 (1.4)	1.38

- (注) 1. 求人倍率を除き前年同期(月)比増減率(%)。  
2. 「求人倍率」は、新規求人数に前月からの繰越し求人を加えた「有効求人」を、新規求職者数に前月からの繰越し求職者数を加えた「有効求職」で除して算出。カッコ内は前年同期(月)。  
3. 労働省調べ。

常用雇用・労働時間

(全産業、前年同期(月)比増減率・%)

	常用 雇用	季節調 整済み 前期 (月)比	総実労 働時間	季節調 整済み 前期 (月)比	所定外 労働時 間	季節調 整済み 前期 (月)比
44年 7～9月	3.4	0.7	-1.2	-0.1	0.9	0.3
10～12〃	3.0	0.5	-0.8	0.0	0.6	-0.9
45年 1～3月	3.2	1.4	-0.1	-0.7	-0.6	-1.1
4～6〃	2.8	0.3	-0.4	0.3	-2.7	-1.0
45年 5月	2.8	0.2	-0.8	-0.2	-4.1	-3.0
6〃	2.8	0.3	-0.3	0.5	-3.3	0.8
7〃	2.8	0.3	-0.4	-0.2	-2.3	1.4
8〃	2.9	0.3	-1.1	-0.8	-3.5	-1.1

(注) 労働省調べ。

比+ 17.8%)、7月(前年同月比 +16.8%)、8月(同+ 17.5%)も夏期ボーナスの高額支給(日経連調べ、主要企業200社平均、前年比+ 23.3%、前年夏期ボーナス、同+ 20.9%)から引き続き高い伸びを示した。この間、労働生産性(全産業)は、

6月は産出量の大幅増加から前年同月比+ 17.5%とかなりの上昇を示したが、4～6月通計では前年同期比+ 15.0%と上記賃金の伸びを下回った。

賃 金

(前年同期(月)比増減率・%)

	総 額	季節調 整済み 前 期 (月)比	うち 定期分	季節調 整済み 前 期 (月)比	実質 賃金 (全産業)
44 年 7 ～ 9 月	17.1	4.6	14.3	3.9	9.6
10 ～ 12 〃	17.5	2.5	14.8	2.9	10.6
45 年 1 ～ 3 月	15.3	2.4	15.3	3.5	6.5
4 ～ 6 〃	17.8	7.4	16.4	5.2	9.6
45 年 5 月	17.1	1.6	16.4	1.9	8.9
6 〃	18.5	3.5	16.9	1.9	10.9
7 〃	16.8	-0.5	18.0	1.9	10.0
8 〃	17.5	2.2	16.9	0.6	11.1

(注) 労働省調べ。

労 働 生 産 性

(前年同期(月)比増減率・%)

	労働生産性			労働投入量		産出量		(参考) 賃 金	
	総合	製造 工業	季節調 整済み 前 期 (月)比	製 造 工 業	製 造 工 業	製 造 工 業	総合	製造 工業	
44年									
7 ～ 9 月	14.6	14.8	3.2	1.6	17.2	17.1	18.1		
10 ～ 12 〃	14.5	14.6	3.2	2.5	18.0	17.5	18.2		
45年									
1 ～ 3 月	15.7	15.7	5.5	3.1	19.7	15.3	15.4		
4 ～ 6 〃	15.0	15.1	2.5	2.8	18.6	17.8	17.4		
45年									
3 月	16.3	16.3	1.0	3.7	21.3	14.8	16.0		
4 〃	13.6	13.6	-0.4	4.5	18.2	17.2	16.7		
5 〃	14.1	14.2	1.4	2.0	17.0	17.1	17.3		
6 〃	17.5	17.7	3.0	2.0	20.5	18.5	17.8		

(注) 生産性本部調べ。